

2024年度春学期

# 応用数学(解析)

第2部・基本的な微分方程式／

第8回

2階線形微分方程式(2)



関西大学総合情報学部  
浅野 晃

## 2階線形微分方程式(復習)💡

2 | 27

### 2階線形微分方程式

一般には  $x'' + P(t)x' + Q(t)x = R(t)$

ここが恒等的に0なのが[齊次]  
そうではないのが[非齊次]

一番簡単なのは  $x'' + ax' + bx = 0$  定数係数の齊次方程式

とりあえず、 $x \equiv 0$  は解[自明解]

それ以外には？

### 2階線形微分方程式の解

とりあえず  $x'' + ax' + bx = 0$  に  $x(t) = e^{\lambda t}$  を代入すると

$$\lambda^2 e^{\lambda t} + a\lambda e^{\lambda t} + b e^{\lambda t} = 0$$

$$(\lambda^2 + a\lambda + b) e^{\lambda t} = 0$$

ここが 0 になるような  $\lambda$  については  
 $x = e^{\lambda t}$  は解、その定数倍も解

$\lambda$  の2次方程式だから、みたす  $\lambda$  はたいてい2つ  $\lambda_1, \lambda_2$

一般解は  $x = C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 e^{\lambda_2 t}$   $x \equiv 0$  を含む

## 2階線形微分方程式を解く

$$x'' + ax' + bx = 0$$

定数係数の  
齊次形2階線形微分方程式

$\lambda^2 + a\lambda + b = 0$  をみたす  $\lambda$  について  $x = e^{\lambda t}$  は解  
特性方程式という

### 特性方程式の解の形によって、3パターン

異なる2つの実数解の場合

異なる2つの虚数解の場合

重解の場合

## 実数解が2つの場合

特性方程式の  
異なる2つの実数解  $\lambda_1, \lambda_2$

微分方程式の  
1次独立な解  $e^{\lambda_1 t}, e^{\lambda_2 t}$

一般解は  $x(t) = C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 e^{\lambda_2 t}$

(つまり、最初のとおり)

## 虚数解が2つの場合

一般解は  $x(t) = C_1 e^{(\alpha+i\beta)t} + C_2 e^{(\alpha-i\beta)t}$

さらに計算すると

$$\begin{aligned} x(t) &= C_1 e^{(\alpha+i\beta)t} + C_2 e^{(\alpha-i\beta)t} \\ &= e^{\alpha t} \left( C_1 e^{i\beta t} + C_2 e^{-i\beta t} \right) \\ &= e^{\alpha t} (C_1 (\cos(\beta t) + i \sin(\beta t)) + C_2 (\cos(\beta t) - i \sin(\beta t))) \quad \text{オイラーの式} \\ &= e^{\alpha t} ((C_1 + C_2) \cos(\beta t) + i(C_1 - C_2) \sin(\beta t)) \quad e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta \text{ による} \end{aligned}$$

定数を置き直して、一般解は

$$x(t) = e^{\alpha t} (C_1 \cos(\beta t) + C_2 \sin(\beta t)) \quad \text{振動を表している (次の第3部で)}$$

## 重解の場合

ふつうにやると、微分方程式の解は  $C_1 e^{\lambda_1 t}$  しか出て来ない

これと1次独立なもうひとつの解は  $t e^{\lambda_1 t}$

確かめるため、解を微分して、微分方程式に代入してみる

$$\begin{aligned} (t e^{\lambda_1 t})' &= \lambda_1 t e^{\lambda_1 t} + e^{\lambda_1 t} = (\lambda_1 t + 1) e^{\lambda_1 t} \\ (t e^{\lambda_1 t})'' &= \lambda_1 (\lambda_1 t + 1) e^{\lambda_1 t} + \lambda_1 e^{\lambda_1 t} = (\lambda_1^2 t + 2\lambda_1) e^{\lambda_1 t} \end{aligned}$$

微分方程式の左辺に代入すると

$$\begin{aligned} &(\lambda_1^2 t + 2\lambda_1) e^{\lambda_1 t} + a\lambda_1 t e^{\lambda_1 t} + b t e^{\lambda_1 t} \\ &= \{\lambda_1^2 + a\lambda_1 + b\} t e^{\lambda_1 t} + (2\lambda_1 + a) e^{\lambda_1 t} \end{aligned}$$

$\lambda_1$  は特性方程式の解  
だから0

特性方程式の  
解と係数の関係により0

一般解は  
 $C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 t e^{\lambda_1 t}$

見つけ方は前回のテキストで  
(定数変化法)

## 非齊次形 2階線形微分方程式

### 非齊次形2階線形微分方程式

前回のは  $x'' + ax' + bx = 0$  定数係数の齊次方程式

今回は  $x'' + ax' + bx = \underline{R(t)}$   
[非齊次]tの式

### 非齊次形2階線形微分方程式

前回のは  $x'' + ax' + bx = 0$  定数係数の齊次方程式

今回は  $x'' + ax' + bx = \underline{R(t)}$  [非齊次]tの式

結論からいうと

非齊次形の一般解 =  
非齊次形の特殊解なにかひとつ(何でもいい)  
+ 対応する齊次形の一般解

### 一般的にいうと

$x'' + P(t)x' + Q(t)x = R(t)$  を,  $x_1 = x, x_2 = x'$  とおいて

$$\begin{aligned}x'_1 &= x_2 \\x'_2 &= -Q(t)x_1 - P(t)x_2 + R(t)\end{aligned}$$

行列で  $\begin{pmatrix} x'_1 \\ x'_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -Q(t) & -P(t) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 \\ R(t) \end{pmatrix}$

$$x' = A(t)x + b(t)$$

1階線形微分方程式の形になる  
何階線形微分方程式でも, この形にできる

## 一般的にいうと

非齊次形  $n$  階線形微分方程式

$x' = A(t)x + b(t)$  の一般解  $x_s(t)$  は

非齊次形方程式

$x' = A(t)x + b(t)$  の任意の特殊解  $x_p(t)$  と

対応する齊次形方程式

$x' = A(t)x$  の一般解  $x_h(t)$  の 和で表される。

$$x_s(t) = \underline{x_h(t)} + \underline{x_p(t)}$$

何階微分方程式でも

定数係数でなくても

## 証明は、割と簡単

まず  $x_s(t) = x_h(t) + x_p(t)$  が

非齊次形方程式  $x' = A(t)x + b(t)$  の解であることを確かめる

右辺に  $x_s(t) = x_h(t) + x_p(t)$  を代入

$$A(t)x_s(t) + b(t)$$

$$= A(t)(\underline{x_h(t)} + \underline{x_p(t)}) + b(t)$$

$$\text{齊次形 } x' = A(t)x = (A(t)x_h(t)) + (A(t)x_p(t) + b(t)) \text{ 非齊次形 } x' = A(t)x + b(t)$$

$$= (\underline{x_h(t)})' + (\underline{x_p(t)})' = (x_s(t))'$$

(左辺)

本当に一般解か？

どんな初期値に対する特殊解でも表せるか？

## 証明は、割と簡単

どんな初期値に対する特殊解でも表せるか？

非齊次形方程式  $x' = A(t)x + b(t)$  の一般解  $x_s(t)$  について  
任意の初期値  $x_s(t_0) = x_0$  を考える

このとき、対応する齊次形方程式  $x' = A(t)x$  の一般解  $x_h(t)$  について

初期値を  $x_h(t_0) = x_0 - x_p(t_0)$  にとれば

$$\begin{aligned} x_s(t_0) &= x_h(t_0) + x_p(t_0) \\ &= (x_0 - x_p(t_0)) + x_p(t_0) \\ &= x_0 \end{aligned}$$

だから、これで  
非齊次形方程式の解で初期値を  $x_s(t_0) = x_0$   
としたことになっている

この齊次形方程式は一意だから、

齊次形方程式でこの初期値の特殊解はひとつ 非齊次形方程式の特殊解もひとつ

例題

## 非齊次形2階線形微分方程式

前回のは

$$x'' + ax' + bx = 0 \quad \text{定数係数の齊次方程式}$$

今回は

$$x'' + ax' + bx = R(t) \quad \text{[非齊次]tの式}$$

結論からいうと

非齊次形の一般解 = これを見つけるには、右辺の形に注目  
非齊次形の特殊解(のひとつ)は かひとつ(何でもいい)  
+ 対応する齊次形の一般解

2023年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 光 17 | 27

## 例題

$x'' + 2x' - 3x = 3t^2 + 3t - 2$  の一般解を求めよ。

非齊次形の特殊解(のひとつ)は  $x = -t^2 - \frac{7}{3}t - \frac{14}{9}$

対応する齊次形の方程式は  $x'' + 2x' - 3x = 0$

特性方程式は  $\lambda^2 + 2\lambda - 3 = 0$  その解は  $\lambda = 1, -3$

異なる2つの実数解なので、齊次形方程式の一般解は  $x = C_1 e^t + C_2 e^{-3t}$

以上から、与えられた非齊次形方程式の一般解は

$$x = C_1 e^t + C_2 e^{-3t} - t^2 - \frac{7}{3}t - \frac{14}{9}$$

2023年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 光 19 | 27

## 例題

$x'' + 2x' - 3x = 3t^2 + 3t - 2$  の一般解を求めよ。

特殊解を、 $x = at^2 + bt + c$  と見当をつける

これを元の方程式に代入して整理すると

$$-(3a+3)t^2 + (4a-3b-3)t + (2a+2b-3c+2) = 0$$

これが  $t$  に関係なくなりたつから

$$\begin{cases} 3a+3 &= 0 \\ 4a-3b-3 &= 0 \\ 2a+2b-3c+2 &= 0 \end{cases} \quad \text{これを解くと } a = -1, b = -\frac{7}{3}, c = -\frac{14}{9}$$

非齊次形の方程式の特殊解(のひとつ)は  $x = -t^2 - \frac{7}{3}t - \frac{14}{9}$

2023年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 光 18 | 27

## 例題

$x'' + 2x' - 3x = e^{2t}$  の一般解を求めよ。

特殊解を、 $x = ae^{2t}$  と見当をつける

これを元の方程式に代入して整理すると

$$4ae^{2t} + 2 \cdot 2ae^{2t} - 3ae^{2t} = e^{2t} \quad \text{これが } t \text{ に関係なくなりたつから } a = \frac{1}{5}$$

非齊次形の方程式の特殊解(のひとつ)は  $x = \frac{1}{5}e^{2t}$

対応する齊次形の方程式は  $x'' + 2x' - 3x = 0$  一般解は  $x = C_1 e^t + C_2 e^{-3t}$

以上から、非齊次形方程式の一般解は  $x = C_1 e^t + C_2 e^{-3t} + \frac{1}{5}e^{2t}$

2023年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 光 20 | 27

## 例題

$x'' + 2x' - 3x = 2\cos t$  の一般解を求めよ。

特殊解を,  $x = A\cos t + B\sin t$  と見当をつける

これを元の方程式に代入して整理すると

$$(-4A + 2B - 2)\cos t + (-2A - 4B)\sin t = 0 \quad \text{cos, sinは独立(あとで説明)}$$

$$\begin{cases} -4A + 2B - 2 = 0 \\ -2A - 4B = 0 \end{cases} \quad A = -\frac{2}{5}, B = \frac{1}{5}$$

非齊次形の方程式の特殊解(のひとつ)は  $x = -\frac{2}{5}\cos t + \frac{1}{5}\sin t$

対応する齊次形の方程式は  $x'' + 2x' - 3x = 0$  一般解は  $x = C_1e^t + C_2e^{-3t}$

以上から, 非齊次形方程式の一般解は  $x = C_1e^t + C_2e^{-3t} - \frac{2}{5}\cos t + \frac{1}{5}\sin t$

2023年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 光 21 | 27

## 関数の1次独立とWronskian



22 | 27

## 関数の1次独立とWronskian

関数  $x_1(t)$  と  $x_2(t)$  が1次独立とは,

$C_1x_1(t) + C_2x_2(t) = 0$  がどんな  $t$  についてもなりたつなら,  $C_1 = C_2 = 0$

ところで  $C_1x_1(t) + C_2x_2(t) = 0$  を  $t$  で微分すると  $C_1x'_1(t) + C_2x'_2(t) = 0$

まとめて行列で書くと  $\begin{pmatrix} x_1(t) & x_2(t) \\ x'_1(t) & x'_2(t) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$

解が  $C_1 = C_2 = 0$  だけになるのは, この行列に逆行列が存在する時

$$\text{つまり } \begin{vmatrix} x_1(t) & x_2(t) \\ x'_1(t) & x'_2(t) \end{vmatrix} \neq 0$$

Wronskianという

2023年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 光 23 | 27

## 関数の1次独立とWronskian(例)

関数  $x_1(t)$  と  $x_2(t)$  が1次独立とは,

$C_1x_1(t) + C_2x_2(t) = 0$  がどんな  $t$  についてもなりたつなら,  $C_1 = C_2 = 0$

cos t と sin t は?

Wronskianは  $\begin{vmatrix} \cos t & \sin t \\ -\sin t & \cos t \end{vmatrix}$

$$\begin{vmatrix} \cos t & \sin t \\ -\sin t & \cos t \end{vmatrix} = \cos^2 t + \sin^2 t = 1 \text{ で, Wronskianが0でないので,}$$

cos t と sin t は1次独立

2023年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 光 24 | 27

## 今日のまとめ

### 定数係数・非齊次形の 2階線形微分方程式

$$x'' + ax' + bx = R(t)$$

非齊次形の一般解 =

非齊次形の特殊解なにかひとつ(何でもいい)

+ 対応する齊次形の一般解      これを見つけるには右辺の形に注目

$$x'' + ax' + bx = 0$$

## 演習問題について(一部)

### 演習問題(3)

$x'' + x = \cos 2t$  の一般解を求めよ。

特殊解を,  $x = A \cos 2t$  と見当をつける

$x' = -2A \sin 2t$ ,  $x'' = -4A \cos 2t$  なので,  $x', x''$  を元の方程式に代入すると

$$\begin{aligned} -4A \cos 2t + A \cos 2t &= \cos 2t \\ (-4A + A - 1)\cos 2t &= 0 \end{aligned}$$

これが  $t$  に関係なくなりたつから,  $A = -\frac{1}{3}$

非齊次形の方程式の特殊解(のひとつ)は  $x = -\frac{1}{3} \cos 2t$

あとは, 対応する齊次形の方程式  $x'' + x = 0$  の一般解を求めてください。